

国際関係研究（国際関係副専攻）
卒業論文作成ガイドライン
（2017年度）

目次

はじめに.....	1
1. 論文作成の各段階で注意すべきこと.....	1
2. 卒業論文の書き方.....	3
(1) 卒業論文を書くということはどういうことか?.....	3
(2) 卒業論文の構成.....	5
(3) 表紙について.....	5
(4) 序論.....	5
(5) 本論.....	5
(6) 結論.....	6
(7) 文献リスト.....	6
(8) 注.....	9
(9) その他の注意.....	9
①タイトルの重要性.....	9
②パラグラフの重要性.....	9
③編集／推敲 (editing).....	10
④完成までのプロセスと時間配分.....	10
3. 手続きに関する詳細.....	11
(1) 卒業論文・卒業研究作成前の留意事項.....	11
①留学予定者・帰国者への諸注意.....	11
②作成要件.....	12
(2) 指導教授決定～卒業論文・卒業研究提出までの流れ.....	12
①指導教授決定について.....	12
②登録手続きについて.....	12
③卒業論文・卒業研究指導の受け方について.....	13
④卒業論文・卒業研究規格について.....	13
⑤論文執筆のための役立つ資料・情報.....	13
⑥提出について.....	14
(3) 論文評価について.....	15
(4) 履修証明について.....	15
(5) 教員情報・事務室連絡先.....	17

はじめに

この冊子は、卒業論文を作成するときに注意すべきことがらをまとめたものです。卒論を書きたいと思い立ってから、執筆を終えるまでにはいくつかの段階があります。それぞれの段階で注意しなければならないことがあり、この冊子では1. 論文作成段階ごとのさまざまな注意事項 2. 卒論の書き方 3. 手続きに関する詳細の3点にわたって説明します。卒業論文を書き終えるまで大切に保存して必要なときに常に参照してください。また、手続きに関して不明な点があれば、2号館6階の総合グローバル学部事務室の窓口で質問してください。履修要覧やこの冊子を読んでも曖昧なことは、決してそのままにせず、必ず質問してください。

1. 論文作成の各段階で注意すべきこと

第一段階：3年次のゼミ履修・指導教授の決定

国際関係副専攻で開講されている講義科目を、皆さんはすでに少しずつ履修してきたはずです。（p.11 卒業論文作成要件、p.18 図参照）その中から自分が最も関心をもつ分野を選んで、3年次にゼミを履修することになります。卒業論文を書きたいと思うようになったら、ゼミの担当教員に早めに相談しましょう。最近では3年生の秋ぐらいから就職活動が忙しくなっています。卒論を書きたくても、事前の相談をするのがつつい遅くなってしまうように注意しましょう。

卒業生からのメッセージ

就活で指導教員に相談に行くのを忘れがちになってしまうので注意が必要です。

第二段階：登録

他の科目と同様に、LOYOLAで履修登録を行います。毎年、卒論の登録を忘れてしまい、遅れ登録をする人を見受けられますので注意してください。

卒業生からのメッセージ

卒論登録は履修登録のときにLOYOLAで行う！忘れないようにしましょう！

2011年度から、卒業論文は通年科目としてではなく、卒業論文・卒業研究Ⅰ・Ⅱのように半期化されました。

履修登録とは別に、総合グローバル学部事務室に卒業論文作成届を提出します。(p.12-p.13)

第三段階：留学する場合の注意事項

留学を予定している人は注意が必要です。まず、卒論を帰国後の4年次秋学期に完成させて卒業する予定なのか、それとも5年目も在学し、5年目に1年間かけて執筆して卒業する予定なのかによって、登録の仕方や論文作成に費やす時間などが異なってきます。

(p.11 参照) 留学すると、留学先での勉強によって今までもっていた関心が大きく変わることがあります。留学中も指導教授とある程度連絡を取ったりすることが必要かもしれません。帰国した年度で卒論を書く場合には、留学中からかなりの準備が必要なのはもちろんです。5年目も在学する場合は、余裕をもって執筆できます。

第四段階：テーマの確定

4月末日までに、総合グローバル学部事務室に卒業論文・卒業研究作成届を提出します。「卒業論文を書きたいけれど、何について書いたらよいかわからない」というのでは困ります。実はテーマが定まるまでにかかなり時間がかかります。卒論作成の半分くらいのエネルギーはこれに費やされると言っても過言ではありません。授業やゼミでの勉強はもちろん、いろいろな文献を読むことなどにはじまり、指導教授との面談で焦点をはっきりさせていくプロセスが重要になってきます。この段階をおろそかにすると途中で行き詰まってしまう。卒論の指導は先生ごとにスタイルが違うので、自分の指導教授の指示に従って、テーマを明確にしていきます。国際関係についておおまかにどのようなトピックに関心があるのか、それについてどのような本を読んだことがあるか、またはこれからどんな文献を読んだらよいか、本や資料を読んで自分がどのような具体的な事象に関心があるのか、もっと深く調べてみたい、考えてみたいと思えるような出来事、事件、事実が何なのかを、ひとつあるいは複数もって指導教授に話にいきましょう。いかに面白いテーマであっても、実際に事実関係を調べることがむずかしかったり、文献がほとんどなかったり、データを集めたくても不可能であったり、さまざまな障壁がある場合があります。自分が調べて書いてみたいことと実際に調べて書けることとの間に食い違いがある場合には、テーマを立て直したり、修正したりすることも必要になってきます。よいテーマを設定するには非常に時間がかかるので、十分に時間をかけてテーマ設定をしてほしいと思います。

第五段階：執筆

論文の構想、章立て、文献など、さまざまな面で周到的な準備が必要です。指導教授の指

導だけでなく、ゼミの仲間とのディスカッションを通して、自分のアイデアを形にしていきます。書くことには想像以上の時間がかかるし、なかなかうまく書けなかったりするとつらいものです。忍耐力も必要です。じっくりと落ち着いて取り組みましょう。詳しくは次の2. 卒論の書き方を読んでください。

途中経過を指導教授に全く報告せず、卒論だけを出すということは避けましょう。また、都合により執筆できなくなったときは、直ちに履修取り消しの手続きをすると同時に指導教授にも報告しましょう。（p.13 参照）

卒業生からのメッセージ

- ・ 1つのことに半年ほどリサーチを積み重ねて行って、あるときぱっと視座が開けてきたときは「書いていてよかった！」と思いました。
- ・ 大学生活の中で勉強もちゃんとやりましたと自信をもっていえるのが卒論。
- ・ 自分の好きなことを調べるのは楽しい。
- ・ 達成感がある。
- ・ 自分の選んだテーマについて、徹底的にリサーチし、いろいろな角度から考えて、人を納得させられる文章にする経験は大事。卒論でなければ得られない経験。
- ・ 長い論理的な日本語の文章を書く機会がなかったので、卒論執筆はよい鍛錬になりました。社会人になった今、新人研修でも若干役に立っている。
- ・ 日本語の文章力が向上した。

最終段階：卒論の提出

完成した卒論は提出期間中に学事センターに提出します。不測の事態にそなえて余裕をもって完成し、提出しましょう。製本や体裁を決められたとおりに整えて提出します。論文の製本や体裁は非常に重要です。内容がいかによぶらしくても、誤字脱字があったり、フォントが特異であったり、見た目が汚いと読者は読む気になりません。見栄えのよさは非常に重要であり、それも含めて論文を書くということです。（p.6-9, p15 参照）

卒業と履修証明書

最後に、これまでの努力の成果として卒業式の日履修証明書がもらえます。（p.15-16 参照）

2. 卒業論文の書き方

(1) 卒業論文を書くとはどういうことか？

卒論は書いてみたいけれど、卒論が一体どういうものなのかイメージできないという人が多いのではないかと思います。

なぜ卒論を書きたいのか？いままで国際関係論をいろいろ勉強して来て、面白いテーマ（漠然としていても可）をみつけたので、それについてもっと調べてみたいから、も

っと深く理解したいと思えることがあるから。こういう答えを期待したいところですが、時には「何について書いたらよいでしょうか？」と質問されることもあります。これは困ります。「これについて書きたい」という何かをもって指導教授を訪ねてください。最初は漠然としたテーマであっても、指導教授や他のゼミ生に対して「自分はこういうことを調べたい、こういうことに関心がある、こういう問題が面白いと思う、なぜなら……」と説明していく過程で次第にポイントがはっきりしてきます。卒論作成には、このようなやりとり、討論、コミュニケーションが何よりも大切です。卒業論文は、自分ひとりでは書けないものであることを忘れないようにしましょう。

しばらくすると、どのような文献、資料を探したらよいかが見えて来ます。資料は沢山入手できればそれにこしたことはありません。少ない資料、一つだけの文献で論文を書くことはできません。自分が関心をもつテーマについてさまざまな著者がどのような議論をおこなって、どのような文献でその考えを述べているか（これを先行研究といいます）を徹底的に調べます。そしてそれを読み進める中から、自分なりの視点が生まれ、他人の研究では十分明らかにされていないと思えることもはっきりして来ます。そうしたら、自分の主張を裏付けるような別の資料や文献を探して読み、さらに考えを深めて行くことになります。

卒業論文を書くとは、そのようなテーマについて、リサーチし、自分で考え（分析し）、自分なりの解釈や主張を明確に書くということです。ただしそれは自分だけがわかればよいという自己満足の世界ではなく、読者（指導教授をはじめ、ゼミの仲間、もっと広い読者）がいて、その読者に読んで理解してもらわなくてははいけません。文章を書く技術が重要になって来ます。皆さんの多くは、学科の授業で課せられるペーパーやゼミのレポートや試験の答案など、さまざまな形で文章を書く練習を積んで来たと思います。しかし、どの程度読者の立場にたって書くということを意識していたでしょうか？卒業論文は、読者を想定して明確な文章を書くことでもあります。読者の中には、自分が卒論で明らかにした考え方や結論に反対する人もいるかも知れません。自分の主張に懐疑的ないしは反対の考えをもつ多くの読者を説得できるような文章を書くことを忘れないでください。そのためには、事実に裏付けられた自分の主張を打ち立てること、自分の主張に対する反対の主張を念頭において、自分の主張が反論に耐えるだけの根拠をもっているかを常に問うことが大切です。

(2) 卒業論文の構成

卒業論文は、表紙、序論、本論、結論、注、文献リストから成り立っています。

(3) 表紙について

表紙には、論文のタイトル、氏名、学生証番号を明記します。タイトルは論文の内容を正確に示すものであり、短いタイトルを読者が見て、直ちにその内容を想像できなければなりません。印象に残るような気の利いたタイトルをつけられるかどうかは、論文の内容が整っているかどうかによって決まります。論文の準備を始めた直後から、タイトルのことは折に触れて考えてください。簡潔で力強い印象を与えるタイトルをつけてください。

(4) 序論

序論では、自分が解答を見だしたいと思っている問(question)について書きます。たとえば、（なぜ〇〇が起こったのだろうか？何故という形式の問をたてることは一つのやり方）そして、なぜそのような問を掲げて答えを出すことが重要か（意味があるか）を書きます。たとえば、誰もきちんと答えをだしていない、答えをだしているけれども不十分である、答えをだすことによって今までよくわからなかったことが説明できるなどの理由があげられます。具体的な書き方について注意しなければならないことを列挙します。まず、書き出しは重要です。書き出しの **one sentence** あるいは **one paragraph** は非常に重要であることを覚えておいてください。読者は最初のパラグラフを読んでつまらなかったら読むのをやめます。読者の関心をひきつけ、後に続く各章を読んでもらい、結論に納得してもらわなければなりません。その最初の手がかりをどのように読者に提供するかが、序論の役割です。

(5) 本論

何章構成になるかは人によって違います。自分の掲げた問、それにこたえるための資料収集、それらの整理と考察・分析、自分の出した問にどう答えたのかを明確に述べていきます。本論に含まれるものとして、(1) 先行研究 (**literature review**) があります。(2) また統計を用いた計量分析やフィールドワークをする人、歴史研究で一次資料を使った研究をする人は、自分の用いる方法論 (**methodology**) について説明します。それ以外の人には、自分の使う資料について説明をします。(3) 論文本体とも言える部

分がこれに続きます。ここでは、自分の主張したいことを、リサーチの結果をもとに説明します。十分な文献収集と整理、それを読んで考察を加えた結果、何がわかったか。自分が明らかにしたことは何かを書きます。(4) 自分がたてた問にどのような答えを出したのかを書きます。

(6) 結論

自分の研究したことの重要性・意義、さらには自分の研究の限界について書きます。両者は表裏一体です。どのようなすぐれた研究成果も、世の中のすべてを説明できるわけではありません。当然、あることを非常に良く説明できた裏側には、説明できなかったことやそもそも自分の研究対象から除外せざるを得なかった重要な問題もあるはずです。それらについて書きます。自分の研究の重要性を明確にすることは同時に限界についても明らかにすることを意味します。逆に限界を明らかにするならば、それだけ論文の意義も明確になります。

(7) 文献リスト

表記の仕方を勉強しましょう。以下で具体的な例をあげていきますが、これ以外にも表記の仕方がありますので、絶対以下の通りにしなければならないわけではありません。

邦語文献・論文は著者名の 50 音順、英語（外国語）文献・論文は著者名のアルファベット順とします。なお、注や文献リストの表記の仕方は、複数あります。以下に掲げるのはその中のひとつ **Chicago Manual of Style** に示されている何通りかある表記方法のうち、社会科学の分野で用いられる表記です。他の表記方法をとってもかまいませんが、自分の論文の中で一貫していることが重要です。きちんとした文献リストを作成することによって、注での記載が簡潔になるというメリットがあります。

【日本語文献の場合】 ここではシカゴマニュアル方式に従った表記の例をあげます。

《単行本》

吉川元. 2007. 『国際安全保障論』有斐閣.

注でこの本からの引用であることを示す場合 ⇒ 吉川(2007), 50-55 頁.

《学術雑誌論文》

岸川毅. 2002. 「メキシコ PRI 体制の『静かな移行』と政治社会の再編」 日本国際政治学会編『国際政治』131号: 16-32.

これを引用し、注で出典を示す場合 ⇒ 岸川(2002), 18 頁.

《編著本》

鹿又伸夫、野宮大志郎、長谷川計二編. 2001. 『質的比較分析』ミネルヴァ書房.

この中に収められている論文の表記は次の通りです。

野宮大志郎. 2001. 「民衆の反乱と社会変動—歴史データの応用」 鹿又伸夫、野宮大志郎、長谷川計二編. 2001. 『質的比較分析』ミネルヴァ書房.

これを引用し、注で出典を示す場合は以下のようになります。

鹿又・野宮・長谷川編(2001), 3 頁. あるいは、野宮(2001 年), 3 頁.

《翻訳書》

翻訳書を使用した場合の表記方法の一例をあげておきます。

ダニエル・ベル編, 齊藤真・泉昌一訳『保守と反動』 (Daniel Bell ed. *The American Rights*. New York: Criterion Books, 1955) みすず書房, 1958 年. ⇒ 注で出典を示す場合、ダニエル・ベル編 (1958), 25 頁.

ルシアン・W・パイ「新興諸国の形成」I・デ・ソラ・プール編, 内山秀夫ほか訳『現代政治学の思想と方法』(Ithiel de Sola pool ed., *Contemporary Political Science: Toward Empirical Theory*, New York: McGraw-Hill, 1967) 勁草書房, 1970 年. 注で出典を示す場合⇒ ルシアン・W・パイ (1970), 285 頁.

【英語（外国語）の文献の場合】

《単行本》

Calder, Kent. 1988. *Crisis and Compensation: Public Policy and Political Stability in Japan*. Princeton: Princeton University Press.

引用する場合⇒ Calder (1988), p. 15.

《共編著》

Greenberger, Martin, Julius Aronofsky, James L. McKenney, and William F. Massy, eds. 1974. *Networks for Research and Education: Sharing of Computer and Information Resources Nationwide*. Cambridge: MIT Press.

引用する場合⇒Greenberger, et. al., eds. (1974), p. 30.

《（共著）論文》

雑誌名は斜字体で書き、巻数、号数、ページ数を示します。

Alesina, Alberto, and Roberto Perotti. 1997. Fiscal adjustments in OECD countries: Composition and macroeconomic effects. *IMF Staff Papers* 44 (2):210-48. （雑誌の巻数、号数がある場合）

引用する場合⇒Alesina and Perotti (1997), pp.210-212.

Borrelli, Stephen A., and Terry J. Boyed. 1995. Government ‘Strength’ and Budget Deficits in Advanced Democracies. *European Journal of Political Research* 28: 225-60. （雑誌の巻数のみしかない場合）

引用する場合⇒Borrelli and Boyed (1995), p.246.

《編著本におさめられた論文》

Cameron, David. 2001. Unemployment, Job Creation, and Economic and Monetary Union. In *Unemployment in the New Europe*, Ed. Nancy Bermeo, 7-51. Cambridge: Cambridge University Press.

引用する場合⇒Cameron (2001), pp.13-16.

インターネットからの引用について

インターネット上の情報の引用については、MLA Handbook 第六版の 208 ページ以下が参考になるので以下で紹介する。

例 1 Ross, Don. “Game Theory.” 11 Sept. 2001. *Stanford Encyclopedia of Philosophy*. Ed. Edward N. Zalta. Fall 2002 ed. Center for the Study of Language and Information, Stanford University. 1 Oct. 2002 <<http://plato.stanford.edu/entries/game-theory/>>

著者名、論文タイトル、論文が書かれた年、出典、編者名、何年版であるか、ウェブサイトのタイトル、アクセス日、URL などの情報が含まれている。

例 2 “City Profile: San Francisco.” CNN.com. 2002. Cable News Network. 14 May 2002 <<http://www.cnn.com/TRAVEL/atevo/city/SanFrancisco/intro.html>>

報道記事のタイトル、出典、最終更新情報、ウェブサイトのタイトル、アクセス日時、URL が含まれている。

新聞雑誌など

新聞記事の場合は、『朝日新聞』2004.10.15 朝刊というように書きます。必要であれば、第○版、○○県版、○面などの情報を付け加える。

アメリカの全国紙の場合は次のようにします。

David Rogers. "Intraparty Feuds Dog Democrats, Stall Congress."WSJ.com. 2007. Wall Street Journal. 13 Dec. 2007.

<http://online.wsj.com/article/SB119750838630225395.html?mod=world_news_whats_new>

(8) 注

注は論文の最後にまとめ、endnote として作成してもよいし、脚注(footnote)の形式で頁ごとにつけてもかまいません。本や論文のタイトル、出版社、出版年や該当箇所を注にすべて書くのは煩雑なので、文献リストをしっかりと作成すること。たとえば吉川先生の『国際安全保障論』という本から引用した場合に、すでに作成した文献リストの中にこの本があがっていれば、注では、吉川（2007）50 頁、というように書くだけで済ますことができます。

(9) その他の注意

① タイトルの重要性

(3) の「表紙について」で説明したとおりです。奇をてらう必要はありませんが、キャッチーなタイトルをつけることは重要です。タイトルにはサブタイトルがついていてもかまいません。

② パラグラフの重要性

パラグラフの冒頭のセンテンスは、そのパラグラフの内容を簡潔に示したものになります。したがって、各パラグラフの最初のセンテンスを拾って読めば、論文の内容がわかるようになっているはずですが。一つの文で一つのパラグラフというような書き方をしてはいけません。

③ 編集／推敲 (editing)

最後まで一応書き通したとしても、それはまだ半分しか完成していないと思ってください。自分が書いたものを推敲する必要があります。同じ言葉を繰り返し使っていないか。十分な証拠をあげて議論しているか。誤字脱字がないか。論旨は明快か。矛盾はないか。論文全体の構成は適切か。書き上げた論文にはこのような問題点が必ず含まれています。一度書き上げてから少し時間をおいて見直すことが理想的です。

④ 完成までのプロセスと時間配分

卒論は限られた時間の中で書き上げなければなりません。就職活動その他で忙しくて十分な時間を論文に割けないために、切羽詰まってようやく書き上げる人が多く見受けられます。卒業論文のテーマ選定は、3年生のうちから徐々に行うことが望ましく、4年生（在学最終年度）になったらすぐに指導教授と相談し、4月末に卒論作成届を提出するときまでに、テーマがだいたい決まっているとその後の卒論作成が非常にやりやすくなるでしょう。作成のスケジュールとしては、テーマを確定する、資料を集める、資料を読む、卒論の構成（何章構成にするか）を考える、書く、書き上げたものを編集する、最終的なチェックをして表紙を作成し提出する、といった流れになると思います。たとえば①夏休み前まで、②夏休み中、③秋学期というようなおおまかな3段階にわけてそれぞれ①テーマの確定・資料探し・資料を読みながらテーマを明確にする時期、②資料を読みながら考えをまとめていく、③執筆、というように考えるのもひとつのやり方ではないでしょうか。自分にあったスケジュールをたててください。実際の執筆は、資料を読む、考える、書く、また資料に戻るなど、行ったり来たりのプロセスになるでしょう。また、序論から書き始める必要も必ずしもなく、書けるところから書き始めるというやり方でもよいと思います。ポイントは、明確なテーマ、自分が説明したい問題がはっきりしていること、論文の構成をしっかりと作っておくことです。ここが不十分だと、どのような資料を探して読めばよいかわからないし、書いていても焦点が定まりません。書くことは非常につらい面もありますが、同時に自分の考えていることが次第にはっきりした形をとってくると楽しくなってきます。このような経験を通して、是非、面白い卒業論文を作成してください。

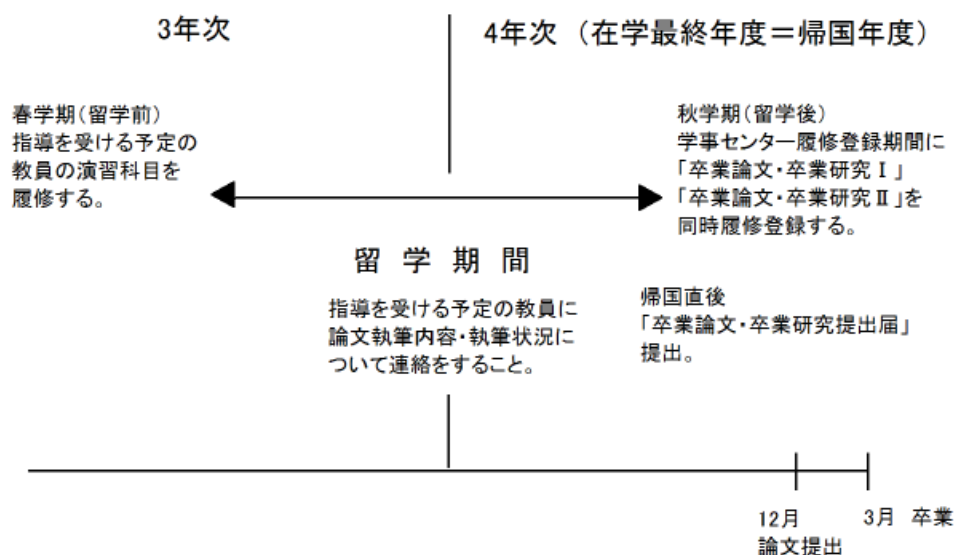
3. 手続きに関する詳細

(1) 卒業論文・卒業研究作成前の留意事項

① 留学予定者・帰国者への諸注意

以下期間で留学し、帰国年度内に卒業論文・卒業研究を提出する予定の学生は、留学前に指導を希望する教員の演習科目を履修の上、留学中に論文執筆状況を担当教員に報告する必要がある。卒業論文・卒業研究の正式な手続きについては、帰国直後に、「卒業論文・卒業研究作成届」を提出の上、帰国後の秋学期に国際関係研究（国際関係副専攻）の「卒業論文・卒業研究Ⅰ」（秋学期3単位）「卒業論文・卒業研究Ⅱ」（秋

学期3単位）の2科目を学事センターが指定する履修登録期間に同時履修登録すること（「卒業論文・卒業研究Ⅱ」の同時登録には所定の「同時履修願」作成・提出が必要）



② 作成要件

卒業論文・卒業研究は、全学共通科目2単位、研究科目10単位、演習科目8単位を既に満たすか、また卒業年度内に満たすことが予想されるものに限り、その作成にとりかかることができる。

※卒業論文・卒業研究は、演習担当教員の指導のもとに卒業論文・卒業研究（6単位）を在学最終年度に定められた期限内に学事センターに提出すること。

FAQ :

Q：履修証明は必要ないので、研究科目を1科目しかとっていません。国際関係分野への進学を考えているため、国際関係副専攻の卒業論文を書きたいと考えています。指導教授が許可すれば執筆してもいいですか？

A：卒業論文作成には、作成要件（卒業年度内に履修証明必要単位を満たすことが予想される者に限り作成できる）がありますので、要件を満たさない場合には、指導教授に相談の上、ゼミ論文に振り替えて論文を執筆して下さい。

(2) 指導教授決定～卒業論文・卒業研究提出までの流れ

① 導教授決定について

指導教授は前年度履修した国際関係研究（国際関係副専攻）が開講する演習科目担当教員の中より選択すること。

本学教員には7年に1度の研究年度（サバティカル）があり、その期間中は授業科目・論文指導を担当しないため、指導教授決定前に、各教員に予定を確認すること。指導を希望する教員がサバティカル期間に当たる場合には、国際関係副専攻内の他教員の専門分野及び各ゼミにおける提出論文題目などを参考に、他教員を指導教授として選択すること。

② 登録手続きについて

卒業論文・卒業研究の作成を希望するものは、以下手続きを期限内に行うこと。

（※登録手続き詳細については、3月下旬に LOYOLA 掲示板に掲載。）

a. 学事センターLOYOLA 履修登録 春学期・秋学期

春学期履修登録期間：国際関係研究（国際関係副専攻）「卒業論文・卒業研究Ⅰ」（春学期3単位）（登録コード：FIR90110）を登録する。

秋学期履修登録期間：国際関係研究（国際関係副専攻）「卒業論文・卒業研究Ⅱ」（秋学期3単位）（登録コード：FIR90140）を登録する。

※3.(1)①に記載した期間で留学する学生については、帰国後秋学期に「卒業論文・卒業研究Ⅰ」（秋学期3単位）（登録コード：FIR90120）、「卒業論文・卒業研究Ⅱ」（登録コード：FIR90140）（秋学期3単位 ※Ⅱの同時履修には所定の「同時履修願」作成・提出が必要）の2科目を同時履修登録する。

b. 「卒業論文・卒業研究作成届」を提出 4月末日

演習担当教員と相談の上、所定の届出用紙3通に記入し、5月末までに指導教授、所属学科長、国際関係副専攻主任にそれぞれ1通ずつ提出する。

※所定フォームは LOYOLA 掲示板及び3月下旬～掲載。

※3.(1)①に記載した期間で留学する学生については帰国直後に指導教授に連絡の上、届出を提出する。

届出宛名	国際関係副専攻主任	所属学科長	指導教授
提出場所	総合グローバル学部事務室 （国際関係副専攻） （2-630）	各所属学科事務室	各指導教員
提出書類	①「卒業論文作成届」 ②「単位取得表」	①「卒業論文作成届」	①「卒業論文作成届」
締切日	4月末日		

＜登録における諸注意＞

※外国語学部生は2年次に登録した専門分野が「国際関係研究」であること。

※履修登録後～論文提出時期までに何らかの事情で、卒業論文・卒業研究執筆を取りやめる場合には、指導教員及び総合グローバル学部事務室に報告の上、学事センター指定の履修修正期間または履修中止期間に履修取り消しの手続きをすること。

③ 卒業論文・卒業研究指導の受け方について

指導は、通常の演習科目内にて行うため、指導を希望する教員の演習科目を3年次・4年次継続して履修すること。

「卒業論文・卒業研究作成届」提出時（4月末）～12月の提出まで、指導教員に卒業論文・卒業研究の作成進捗状況を報告の上、適切な指導を受けること。

④ 卒業論文・卒業研究規格について

＜卒業論文＞

- ・論文形式の研究成果で、表紙、目次、注記、文献目録からなる。
- ・指導・評価は主査1人、ないしは主査と主査の指名する副査の2人による。
- ・規格については下記の通り。その他、詳細については指導教授の指示に従うこと。

規格：A4版・横書き、綴じ方：簡易製本（左綴じ）、枚数：20枚前後

- ・その他：ページ設定：字数40字/行 行数30行/頁

＜卒業研究＞

- ・論文形式以外の研究成果で、形式においては卒業論文と異なるものの、内容と完成に要する知的努力においては卒業論文と同等とみなせるものでなければならない。テーマについては、演習担当教員と相談すること。
- ・指導は主査、評価は主査及び副査の2人による。
- ・卒業研究は、研究成果とその成果に対する解説資料などの文書化されたもの（8,000字程度）からなる。

⑤ 論文執筆のための役立つ資料・情報

論文の書き方についてはさまざまなハンドブックが出版されている。英語のハンドブックは、日本語で論文を執筆するときにも参考になる。

<主なハンドブック>

*小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。

**The Chicago Manual of Style*. The University of Chicago Press.

*Strunk, William and E.B. White. 2000. *The Elements of Style*. Fourth Edition. New York: Longman.

*Gibaldi, Joseph. 2003. *MLA Handbook for Writers of Research Papers*. Sixth Edition. New York: The Modern Language Association of America.

*Purdue OWL (Online Writing Lab) (<http://owl.english.purdue.edu/owl/>)

これは Writing を助けるためのサイトです。

*Suite101.com (<http://www.suite101.com/>)

このサイトの writing & publishing の項目が参考になります。

(<http://www.suite101.com/writingandpublishing>)

<中央図書館 ラーニング・コモンズ>

2009年10月に中央図書館地下に開設されたラーニング・コモンズでは、学習支援席があり、大学院生に論文の書き方、資料収集方法などのアドバイスを受けることができます。

<学習支援席>



<サービス時間> 月～金 12:30～17:00

(質問受付は 16:30 まで)

<質問受付内容（例）>

- レポート・論文の書き方が分からない
- 情報収集の方法が知りたい
- プレゼンテーションの方法が分からない
- ゼミの選び方を知りたい
- 授業のとり方を相談したい

⑥ 提出について

簡易製本左とじの上、学事センター指定の期間に卒業論文・卒業研究を提出する。



簡易製本サンプル

※簡易製本は、中央図書館5階オーエーリックスなどでできます。
 ※表紙に学事センター配布の提出票を添付して提出する。

<卒業論文提出について>（2017年度）

提出期間：2017年12月4日（月）～12月8日（金）
 ※締切日（12月8日）・締切時間（17:00）を厳守のこと。
 提出部数：1部
 提出場所：学事センター（2号館1階） 教務窓口

(3) 論文評価について

2011年度より、国際関係研究（国際関係副専攻）の卒業論文・卒業研究は Semester 化されたため、評価については以下の通りとなる。

「卒業論文・卒業研究Ⅰ」（3単位） P（合格）または X（不合格）

「卒業論文・卒業研究Ⅱ」（3単位） A～F

(4) 履修証明について

国際関係研究（国際関係副専攻）が定める規定の単位（全学共通科目：2単位以上 研究科目：10単位以上 演習科目：8単位以上 卒業論文・卒業研究：6単位）を取得した場合には、履修証明取得が可能です（*申請についての詳細は LOYOLA 掲示板に告知します。）

履修証明申請期間：卒業論文提出後～2017年12月14日（予定）

和文または英文どちらか1通の履修証明を申請できます。

履修証明サンプル（外国語学部生）

専門分野履修証明英文

専門分野履修証明和文（表）

専門分野履修証明和文（裏）

履修証明サンプル（他学部生）

副専攻履修証明英文

副専攻履修証明和文（表）

副専攻履修証明和文（裏）

(5) 教員情報・事務室連絡先<2017年度 国際関係副専攻演習担当教員一覧：専門分野・連絡先>

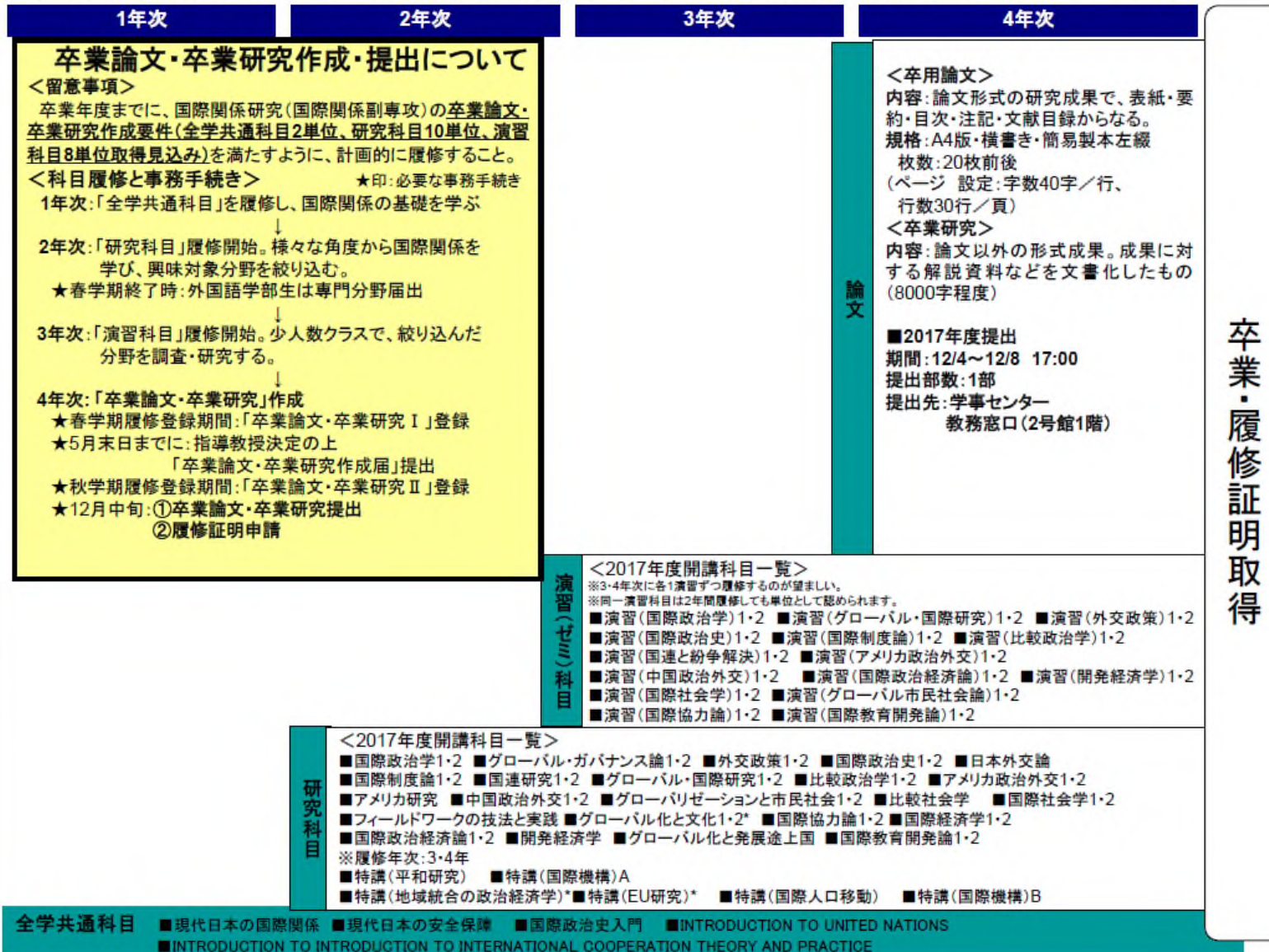
教員名	専門分野	担当科目(国際関係分野)	研究室	E-mail/URL
蘭 信三 Araragi, Shinzo	社会学(国際社会学・歴史社会学・戦争社会学)	国際社会学1・2 フィールドワークの技法と実践、特講(国際人口移動) 演習(国際社会学)1・2	2-622	araragi@sophia.ac.jp
稲葉 奈々子 Inaba, Nanako	グローバル社会学、 グローバル化と市民社会、 国際移動とジェンダー、社会運動	グローバリゼーションと市民社会1・2 比較社会学 演習(グローバル市民社会論)1・2	2-612	inabanako@sophia.ac.jp
植木 安弘 Ueki, Yasuhiro	国際政治、国連研究、国際機構論、 紛争解決、国際コミュニケーション、戦略広報	INTRO. TO UNITED NATIONS【全学共通科目】 国連の役割と機能(国連集中研修プログラム)、 国連研究1・2、演習(国連と紛争解決)1・2、特講(国際機構)A	2-823	hiro.ueki@sophia.ac.jp
デヴィッド・ウェッセルズ Wessels, David	グローバル・国際研究、平和研究、 国際人権論、国際関係と宗教	グローバル・国際研究1・2、 演習(グローバル・国際研究)1・2、 特講(平和研究)	2-613	wessels@sophia.ac.jp
岸川 毅 Kishikawa, Takeshi	比較政治学、民主化論	比較政治学1・2、演習(比較政治学)1・2	2-621	t-kishik@sophia.ac.jp
下川 雅嗣 Shimokawa, Masatsugu	開発経済学、国際政治経済論、 グローバル化と貧困問題	国際経済学1・2、 国政政治経済論1・2、 演習(国際政治経済論)1・2	2-611	m-shimok@sophia.ac.jp http://pweb.sophia.ac.jp/shimokawa/
高島 亮 Takashima, Ryo	開発経済学、国際貿易論、 幸福の経済学、	開発経済学、グローバル化と発展途上国 演習(開発経済学)1・2	2-620	rtakashima@sophia.ac.jp http://pweb.cc.sophia.ac.jp/rtakashima/
田中 雅子 Tanaka, Masako	開発学、国際協力論、ジェンダー論、 NGO/NPO論、南アジア地域研究	国際協力論1・2 演習(国際協力論)1・2	2-810	mtanaka@sophia.ac.jp
都留 康子 Tsuru, Yasuko	国際政治学、平和学、国際制度論、 海洋ガバナンス、アジアの海洋安全保障	国際制度論1・2、 演習(国際制度論)1・2	2-824	ytsuru1987@sophia.ac.jp
納家 政嗣 Naya, Masatsugu	国際政治学、国際安全保障論、 軍備管理・軍縮論、グローバル化と国際秩序	国際政治学1・2、グローバル・ガバナンス論1・2 演習(国際政治学)1・2	2-619	mnaya@sophia.ac.jp
廣里 恭史 Hirosato, Yasushi	国際教育開発論、国際教育協力論、 比較国際教育学	国際教育開発論1・2、 演習(国際教育開発論)1・2、特講(国際機構)B	2-610	yhirosato@sophia.ac.jp
樋渡 由美 Hiwatari, Yumi	政治学、国際関係論、 日米関係と日本の防衛・外交政策	現代日本の国際関係、現代日本の安全保障【全学共通科目】 外交政策1・2 演習(外交政策)1・2	2-614	hiwatari@sophia.ac.jp http://www.hiawatari03.sakura.ne.jp/ http://yhiwatari.com
前嶋 和弘 Maeshima, Kazuhiro	現代アメリカ政治	アメリカ研究、アメリカ政治外交1・2、 演習(アメリカ政治外交)1・2	2-809	maeshima@sophia.ac.jp
宮城 大蔵 Miyagi, Taizo	国際政治史、日本外交	国際政治史入門【全学共通科目】 国際政治史1・2、日本外交論 演習(国際政治史)1・2	2-618	tmiyagi@sophia.ac.jp
渡辺 紫乃 Watanabe, Shino	国際関係論、現代中国論、 東アジアの国際関係	中国政治外交1・2 演習(中国政治外交)1・2	2-617	swatanabe@sophia.ac.jp

総合グローバル学部事務室(国際関係副専攻)

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 2-630a
 E-mail: f-global@sophia.ac.jp 電話: 03-3238-4229
 http://dept.sophia.ac.jp/fs/ir/

国際関係研究(国際関係副専攻)論文提出までの流れ

入学
 (他学部・外国語学部)



卒業・履修証明取得

国際関係研究専門分野（国際関係副専攻）単位取得表（卒業論文・卒業研究用）

所属学科： _____ 学生番号： _____ 氏名： _____

卒業論文・卒業研究作成要件：

全学共通科目 2 単位、研究科目 10 単位、演習科目 8 単位を既に修得済み（卒業年度内に取得見込み）

国際関係研究（副専攻）で履修した（履修中、履修予定も含む）科目を全て記入してください。

科目種別	科目名	履修年度	単位数
全学共通科目（2 単位以上）			
全学共通科目 合計単数			
研究科目（10 単位以上）			
研究科目 合計単数			
演習科目（8 単位以上）			
演習科目 合計単数			
留学・編入による 単位認定科目	全学共通科目として	単位	
	研究科目として	単位	
	演習科目として	単位	

2017 年度 国際関係研究専門分野（国際関係副専攻）

卒業論文・卒業研究作成届

国際関係副専攻主任 殿

所 属： _____ 学部 _____ 学科

学生番号： _____ 氏名： _____

E-mail (PC) : _____

電話番号： _____

卒業年度 (予定) : _____ 年 _____ 月

I 題 名

II 簡単な内容

III 主 査 教 授

_____ (印)

なお、期日までに論文・研究を提出しない時は、卒業論文・卒業研究単位 6 単位を
取得しえないことに異議ありません。

年 月 日

氏名

_____ (印)

提出締切日：2017 年 4 月 28 日 (金) 17 : 00

提 出 先：総合グローバル学部事務室 (2-630a)

※単位取得表を添付して下さい。

2017 年度 国際関係研究専門分野（国際関係副専攻）

卒業論文・卒業研究作成届

所属学科長 殿

所 属： _____ 学部 _____ 学科

学生番号： _____ 氏名： _____

E-mail (PC) : _____

電話番号： _____

卒業年度 (予定) : _____ 年 _____ 月

I 題 名

II 簡単な内容

III 主 査 教 授

_____ (印)

なお、期日までに論文・研究を提出しない時は、卒業論文・卒業研究単位 6 単位を
取得しえないことに異議ありません。

年 月 日

氏名 _____ (印)

提出締切日：2017 年 4 月 28 日（金） 17：00

提 出 先：所属学科事務室

2017 年度 国際関係研究専門分野（国際関係副専攻）

卒業論文・卒業研究作成届

指導教授 殿

所 属： _____ 学部 _____ 学科

学生番号： _____ 氏名： _____

E-mail (PC) : _____

電話番号： _____

卒業年度 (予定) : _____ 年 _____ 月

I 題 名

II 簡単な内容

III 主 査 教 授

_____ (印)

なお、期日までに論文・研究を提出しない時は、卒業論文・卒業研究単位 6 単位を
取得しえないことに異議ありません。

年 月 日

氏名

_____ (印)

提出締切日：2017 年 4 月 28 日（金） 17：00

提 出 先：指導教授